

図書館運営に関する提言を目指してvol.2

－量的分析を通して－

For a proposal about the library administration vol.2

漆澤 恭子¹ 三枝 隆²

学生の平成23年度図書館利用状況について、学部学科学年毎の月別利用状況と学部学科学年毎の図書分類項目別利用状況を作成した。図書選定の一応の参考にはなるが、ここに表れた傾向が一時的なものなのか継続的なものなのかを見定める為には同じ形式の表を連続して数年間作成していく必要がある。

Key Words：図書館利用状況、図書選定資料

1 昨年度分析の概要と本年度の目標

図書館長拝命初年度の昨年は、図書館で定期的に発行している「図書館利用状況（貸出）状況」を元に幾つかの統計表を作成した。更に一番貸出数が多い7月の貸出状況を元データに戻って詳しく分析した。その結果、学部学科学年によって図書館を利用する時期が異なっているらしい事が明らかになった。年間4回に分けて図書選定を依頼している状況からすれば、各学部学科学年毎の月別の利用状況は大いに選定者の参考になると思わ

れる。この表の作成を本年度の目標の第一とする。また各学部毎の図書分類別の利用数集計も図書選定の参考となる。この表の作成を本年度の目標の第二とする。

2 学部学科学年毎の月別利用状況

平成23年度貸出状況を、元データに戻って集計した結果は表1の通りである。なお目標に沿い、学生以外の集計値は除いてある。

表1 月別利用件数（2011年度）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
[地域介護福祉1年]	33	15	16	43	22	19	39	26	20	44	20	0	297
[地域介護福祉2年]	28	121	71	26	21	72	2	48	41	25	4	7	466
[介護福祉専攻]	0	14	12	3	0	0	0	8	14	6	0	0	57
介護福祉小計	61	150	99	72	43	91	41	82	75	75	24	7	820
[児童障害福祉1年]	62	79	96	75	16	12	140	324	51	92	37	14	998
[児童障害福祉2年]	130	559	645	73	43	72	240	191	157	126	20	4	2260
[特別支援教育専攻]	7	7	3	2	0	3	4	15	0	1	0	0	42
障害福祉小計	199	645	744	150	59	87	384	530	208	219	57	18	3300

1 植草学園大学図書館長 植草学園短期大学

2 元東京都教育相談センター

[発達教育学部1年]	577	447	599	1401	73	11	106	67	64	99	122	2	3568
[発達教育学部2年]	32	70	39	57	23	33	271	188	81	254	68	5	1121
[発達教育学部3年]	101	249	98	315	110	20	217	58	86	90	75	12	1431
[発達教育学部4年]	80	62	41	53	55	21	51	47	48	56	12	4	530
発達教育小計	790	828	777	1826	261	85	645	360	279	499	277	23	6650
[保健医療学部1年]	29	50	70	34	0	2	22	39	49	39	5	1	340
[保健医療学部2年]	69	34	36	38	39	7	51	35	25	35	24	0	393
[保健医療学部3年]	80	49	49	58	11	10	147	139	76	247	36	83	985
[保健医療学部4年]	38	23	50	29	40	7	19	28	62	42	36	23	397
保健医療小計	216	156	205	159	90	26	239	241	212	363	101	107	2115
合計	1266	1779	1825	2207	453	289	1309	1213	774	1156	459	155	12885

当然の事ではあるが、夏休みに掛かる8月9月は少なくなっている。
 の利用状況と学年末に掛かる2月3月の利用状況 表1の縦方向の割合を表2に示す。

表2 月別利用件数の割合（縦方向）

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
[地域介護福祉1年]	2.6	0.8	0.9	1.9	4.9	6.6	3.0	2.1	2.6	3.8	4.4	0.0	2.3
[地域介護福祉2年]	2.2	6.8	3.9	1.2	4.6	24.9	0.2	4.0	5.3	2.2	0.9	4.5	3.6
[介護福祉専攻]	0.0	0.8	0.7	0.1	0.0	0.0	0.0	0.7	1.8	0.5	0.0	0.0	0.4
介護福祉小計	4.8	8.4	5.4	3.3	9.5	31.5	3.1	6.8	9.7	6.5	5.2	4.5	6.4
[児童障害福祉1年]	4.9	4.4	5.3	3.4	3.5	4.2	10.7	26.7	6.6	8.0	8.1	9.0	7.7
[児童障害福祉2年]	10.3	31.4	35.3	3.3	9.5	24.9	18.3	15.7	20.3	10.9	4.4	2.6	17.5
[特別支援教育専攻]	0.6	0.4	0.2	0.1	0.0	1.0	0.3	1.2	0.0	0.1	0.0	0.0	0.3
障害福祉小計	15.7	36.3	40.8	6.8	13.0	30.1	29.3	43.7	26.9	18.9	12.4	11.6	25.6
[発達教育学部1年]	45.6	25.1	32.8	63.5	16.1	3.8	8.1	5.5	8.3	8.6	26.6	1.3	27.7
[発達教育学部2年]	2.5	3.9	2.1	2.6	5.1	11.4	20.7	15.5	10.5	22.0	14.8	3.2	8.7
[発達教育学部3年]	8.0	14.0	5.4	14.3	24.3	6.9	16.6	4.8	11.1	7.8	16.3	7.7	11.1
[発達教育学部4年]	6.3	3.5	2.2	2.4	12.1	7.3	3.9	3.9	6.2	4.8	2.6	2.6	4.1
発達教育小計	62.4	46.5	42.6	82.7	57.6	29.4	49.3	29.7	36.0	43.2	60.3	14.8	51.6
[保健医療学部1年]	2.3	2.8	3.8	1.5	0.0	0.7	1.7	3.2	6.3	3.4	1.1	0.6	2.6
[保健医療学部2年]	5.5	1.9	2.0	1.7	8.6	2.4	3.9	2.9	3.2	3.0	5.2	0.0	3.1
[保健医療学部3年]	6.3	2.8	2.7	2.6	2.4	3.5	11.2	11.5	9.8	21.4	7.8	53.5	7.6
[保健医療学部4年]	3.0	1.3	2.7	1.3	8.8	2.4	1.5	2.3	8.0	3.6	7.8	14.8	3.1
保健医療小計	17.1	8.8	11.2	7.2	19.9	9.0	18.3	19.9	27.4	31.4	22.0	69.0	16.4
合計	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100.0

発達教育学部の利用状況が群を抜いて大きく、児童障害福祉がそれに次いでいる。この真偽や背景について議論する為には、更に集計年度を重ね

ていく必要がある。表1の横方向の割合を表3に示す。

表3 月別利用件数の割合(横方向)

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
[地域介護福祉1年]	11.1	5.1	5.4	14.5	7.4	6.4	13.1	8.8	6.7	14.8	6.7	0.0	100.0
[地域介護福祉2年]	6.0	26.0	15.2	5.6	4.5	15.5	0.4	10.3	8.8	5.4	0.9	1.5	100.0
[介護福祉専攻]	0.0	24.6	21.1	5.3	0.0	0.0	0.0	14.0	24.6	10.5	0.0	0.0	100.0
介護福祉小計	7.4	18.3	12.1	8.8	5.2	11.1	5.0	10.0	9.1	9.1	2.9	0.9	100.0
[児童障害福祉1年]	6.2	7.9	9.6	7.5	1.6	1.2	14.0	32.5	5.1	9.2	3.7	1.4	100.0
[児童障害福祉2年]	5.8	24.7	28.5	3.2	1.9	3.2	10.6	8.5	6.9	5.6	0.9	0.2	100.0
[特別支援教育専攻]	16.7	16.7	7.1	4.8	0.0	7.1	9.5	35.7	0.0	2.4	0.0	0.0	100.0
障害福祉小計	6.0	19.5	22.5	4.5	1.8	2.6	11.6	16.1	6.3	6.6	1.7	0.5	100.0
[発達教育学部1年]	16.2	12.5	16.8	39.3	2.0	0.3	3.0	1.9	1.8	2.8	3.4	0.1	100.0
[発達教育学部2年]	2.9	6.2	3.5	5.1	2.1	2.9	24.2	16.8	7.2	22.7	6.1	0.4	100.0
[発達教育学部3年]	7.1	17.4	6.8	22.0	7.7	1.4	15.2	4.1	6.0	6.3	5.2	0.8	100.0
[発達教育学部4年]	15.1	11.7	7.7	10.0	10.4	4.0	9.6	8.9	9.1	10.6	2.3	0.8	100.0
発達教育小計	11.9	12.5	11.7	27.5	3.9	1.3	9.7	5.4	4.2	7.5	4.2	0.3	100.0
[保健医療学部1年]	8.5	14.7	20.6	10.0	0.0	0.6	6.5	11.5	14.4	11.5	1.5	0.3	100.0
[保健医療学部2年]	17.6	8.7	9.2	9.7	9.9	1.8	13.0	8.9	6.4	8.9	6.1	0.0	100.0
[保健医療学部3年]	8.1	5.0	5.0	5.9	1.1	1.0	14.9	14.1	7.7	25.1	3.7	8.4	100.0
[保健医療学部4年]	9.6	5.8	12.6	7.3	10.1	1.8	4.8	7.1	15.6	10.6	9.1	5.8	100.0
保健医療小計	10.2	7.4	9.7	7.5	4.3	1.2	11.3	11.4	10.0	17.2	4.8	5.1	100.0
合計	9.8	13.8	14.2	17.1	3.5	2.2	10.2	9.4	6.0	9.0	3.6	1.2	100.0

予想通り各学部学科学年毎の利用状況にはズレがある。

地域介護福祉専攻1年の利用は1月がピークであるが、2年のピークは5月である。これは5月以降の図書選定では1年が必要とする図書を中心に選定すればよく、1月以降の選定では2年を中心にすればよい事を示している。無論、図書選定事務処理に掛かる時間との兼ね合いもあるのでこの通りにはいかないが、一応の目安にはなるであろう。

児童障害福祉専攻では1年のピークは11月にあり、2年のピークは5、6月にある。従って5月

以降の図書選定では1年を中心に行い、11月以降の選定では2年を中心に行う事が合理的である。

発達教育学部では1年と3年のピークは7月だが、2年のピークは10月と2月にあり、4年は際立ったピークはない。従って7月以降の選定では1年と3年を、10月以降は2年を中心とする事になるが、余り過度にそれに縛られると逆効果となる虞がある。

保健医療学部では1年のピークが6月に、3年のピークは1月にあるが際立ってはいない。2年、4年には大きなピークが無い事を併せ考えれば、選定期間毎の中心学年をさほど気にしなくてもよ

い事になる。

なお学部学科専攻毎でも利用状況のピークはずれている。これを基に選定期間により学部学科への配布予算に軽重を付ける資料としても利用できるが、図書館長の権限を越えているのでここでは触れるに留める。

3 学部学科専攻学年毎の図書分類別の集計

学部学科専攻で必要となる図書はどの分野の本であるかを示している。なお紙面横サイズの関係で図書分類項目は利用件数の上位10項目について表示してある。全ての項目についての数値を知りたい場合には筆者までご連絡を頂きたい。

(1) 地域介護福祉専攻

表4 地域介護福祉専攻

図書分類	106 (福祉)	101 (医学・薬学)	104 (介護)	921 (絵本)	103 (教育)	905 (和・専門雑誌)	911 (問題集)	118 (楽譜)	109 (心理学)	800 (文学)	一部省略	合計	
[地域介護福祉1年]	29	56	27	45	13	0	17	6	2	3			297
[地域介護福祉2年]	62	13	43	6	26	31	4	7	8	6			466
[介護福祉専攻]	7	2	1	0	2	1	0	1	0	1			57
合計	98	71	71	51	41	32	21	14	10	10			820

1年は「絵本」「医学・薬学」の利用件数が多く、2年は「福祉」「介護」が多い。前項での議論と併せ考えれば、5月以降の選定では「絵本」「医

学・薬学」を、1月以降の選定では「福祉」「介護」を中心にすればよい事になる。

(2) 児童障害福祉専攻

表5 児童障害福祉専攻

図書分類	921 (絵本)	103 (教育)	920 (紙芝居・パネルシアター)	118 (楽譜)	119 (保育・育児)	905 (和・専門雑誌)	106 (福祉)	101 (医学・薬学)	107 (美術・書道)	104 (介護)	一部省略	合計	
[児童障害福祉1年]	438	172	8	50	37	9	13	13	15	0			998
[児童障害福祉2年]	884	338	340	87	78	87	37	24	11	24			2260
[介護福祉専攻]	2	17	1	0	1	2	4	2	0	0			42
合計	1324	527	349	137	116	98	54	39	26	24			3300

1年は「絵本」が多く、2年は「絵本」「紙芝居」「教育」と続いている。同じく前項での議論と併せ考えれば、5月以降は「絵本」を中心に、11月以降は「紙芝居」「教育」を中心にすればよい事になる。

(3) 発達教育学部

この学部の利用件数は非常に多く、下の表には表れていないが利用図書分類項目も多岐にわたっている。従ってまずは利用分類項目上位の図書を

中心に選定して頂くのだが、同時に図書全般についても配慮して頂く事も必要がある。この辺りの議論は図書館自体の図書購入基準との兼ね合いも出てくるので、一般図書を学部への配布予算で買うのか学校全体予算の中で買うのか、予め相談しておく必要がある。いずれにしろここも図書館長の権限を越えるので同じく触れるに留める。

表6 発達教育学部集計

図書分類	921	103	920	800	106	101	923	118	119	905	一部省略	合計	
	(絵本)	(教育)	(紙芝居)	(文学)	(福祉)	(医学・薬学)	(漫画)	(楽譜)	(保育・育児)	(和・専門雑誌)			
[発達教育学部1年]	1035	594	0	154	118	138	87	31	66	5			3568
[発達教育学部2年]	472	154	149	42	31	4	25	25	11	21			1121
[発達教育学部3年]	556	215	101	35	65	8	13	33	20	26			1431
[発達教育学部4年]	30	101	8	14	16	2	0	12	3	23			530
合計	2093	1064	258	245	230	152	125	101	100	75	6650		

1年2年3年共に「絵本」「教育」の利用件数が多い。1年の「紙芝居」の利用件数が零であるのは授業内容や実習と関係があるのだろう。学年毎の利用件数に大きな差はないので、時期に関わ

らず「絵本」「教育」「紙芝居」を中心に図書選定していけばよい事になる。

(4) 保健医療学部

表7 保健医療学部集計

図書分類	101	905	911	923	106	103	920	102	550	921	一部省略	合計	
	(医学・薬学)	(和・専門雑誌)	(問題集)	(漫画)	(福祉)	(教育)	(紙芝居)	(看護)	(言語)	(絵本)			
[保健医療学部1年]	57	11	2	22	7	15	7	4	4	1			340
[保健医療学部2年]	76	1	29	19	14	0	0	3	0	0			393
[保健医療学部3年]	227	209	60	9	22	4	9	6	7	11			985
[保健医療学部4年]	106	17	69	0	3	2	0	1	1	0			397
合計	466	238	160	50	46	21	16	14	12	12	2115		

3年の「医学・薬学」と「専門雑誌」が多い以外は大きな数値はない。従って選定期間に拘わらず、「医学・薬学」「専門雑誌」を中心に選定していけばよい事になる。

4 本年度分析の活用法と来年度研究の目標

経験によれば教職員の図書館図書の選定は、決められた選定期間に配布された予算の範囲内で、講義の参考になる本、授業で必要となる本、学生から挙げた本などをピックアップするだけで、何らかのデータを参考にする事はなかったと思うがどうだろうか。私の経験が一般的だとすれば、今回の集計結果はそれなりに意義を持つものであろう。しかし今年度の集計結果が来年度以降も同じ傾向で推移するかと言えばその保証はない。あくまでも平成23年度はこうであったとの数値であ

る。例えば圧倒的に多かった発達教育学部1年の利用件数の背景は、カリキュラムの為なのか所属する学生達の特性の為なのかはこの集計結果からは分からない。この背景を分析する為には、来年度以降も同様な集計を続ける必要がある。最低でも3年間は同じ集計表を作成して、比較から分析しなければならない。また教師の授業展開方法にも因る訳だが、これに起因する利用状況の変化は統計から読みとる事は難しい。

従ってこの研究から得られた集計表は、あくまでも参考資料として図書選定者に提供していく事になる。一方同じ形式の集計表を数年にわたって作成し、一時的な傾向か継続的な傾向かを見定めていく必要がある。短大から大学まで全学年が揃った平成23年度は、この種の集計表を作成するのに最も適した年度である。